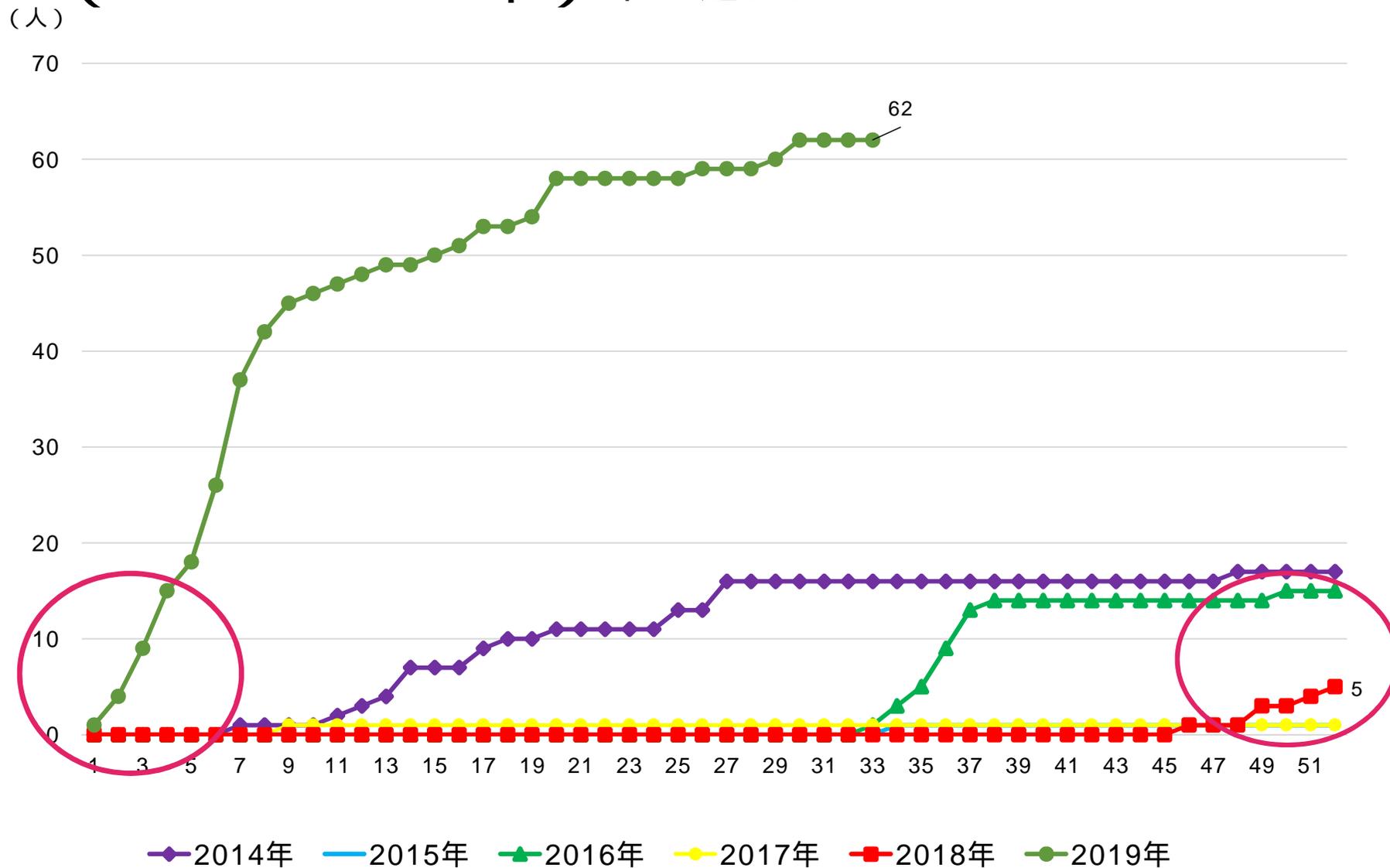


2019年大阪市麻しん対応

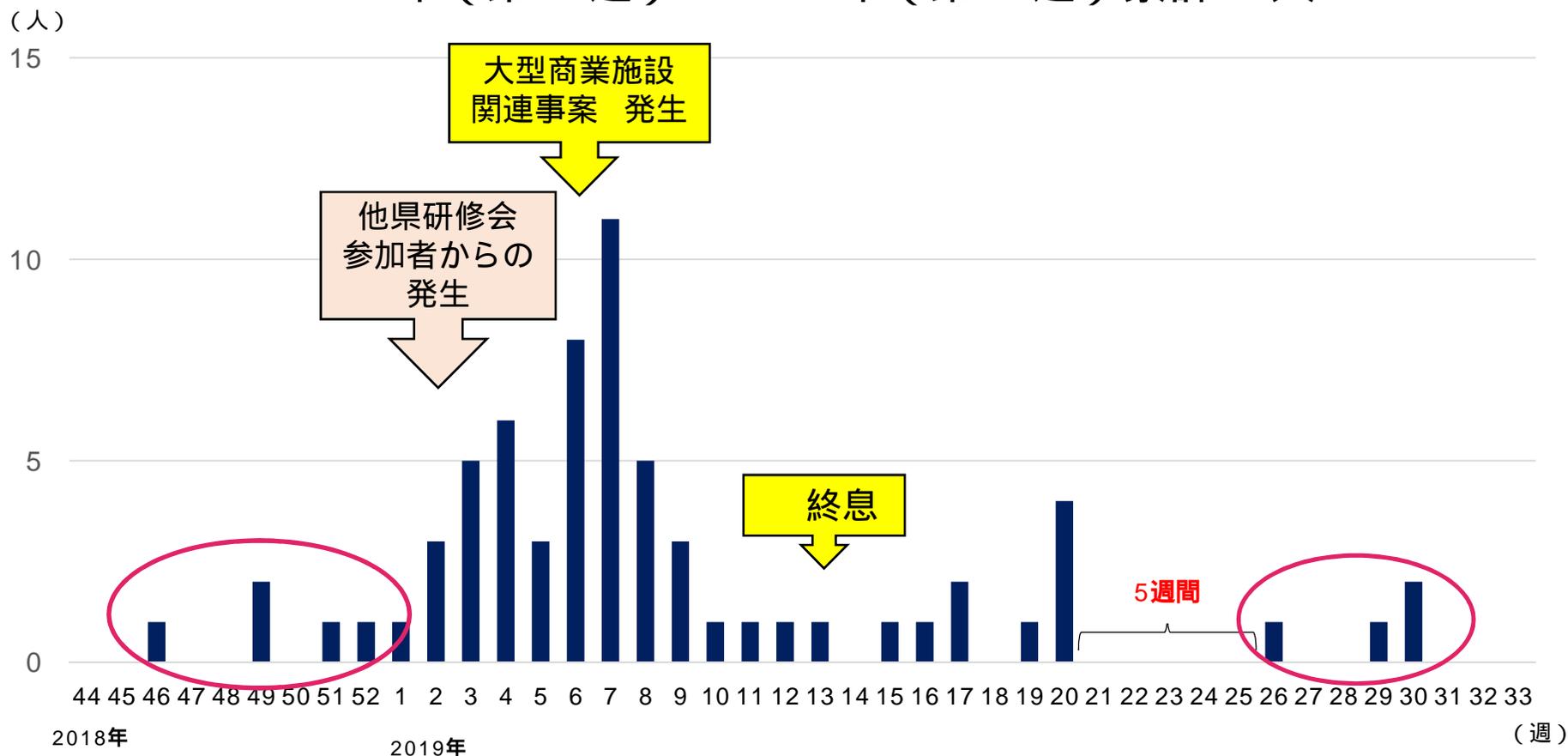
R1.8.29 (Thu.) 大阪市発生動向調査委員会

大阪市内における麻しん患者累積報告数の推移 (2014-2019年) 第33週まで



大阪市内における週別麻しん患者報告数

2018年（第44週）～2019年（第33週）累計67人

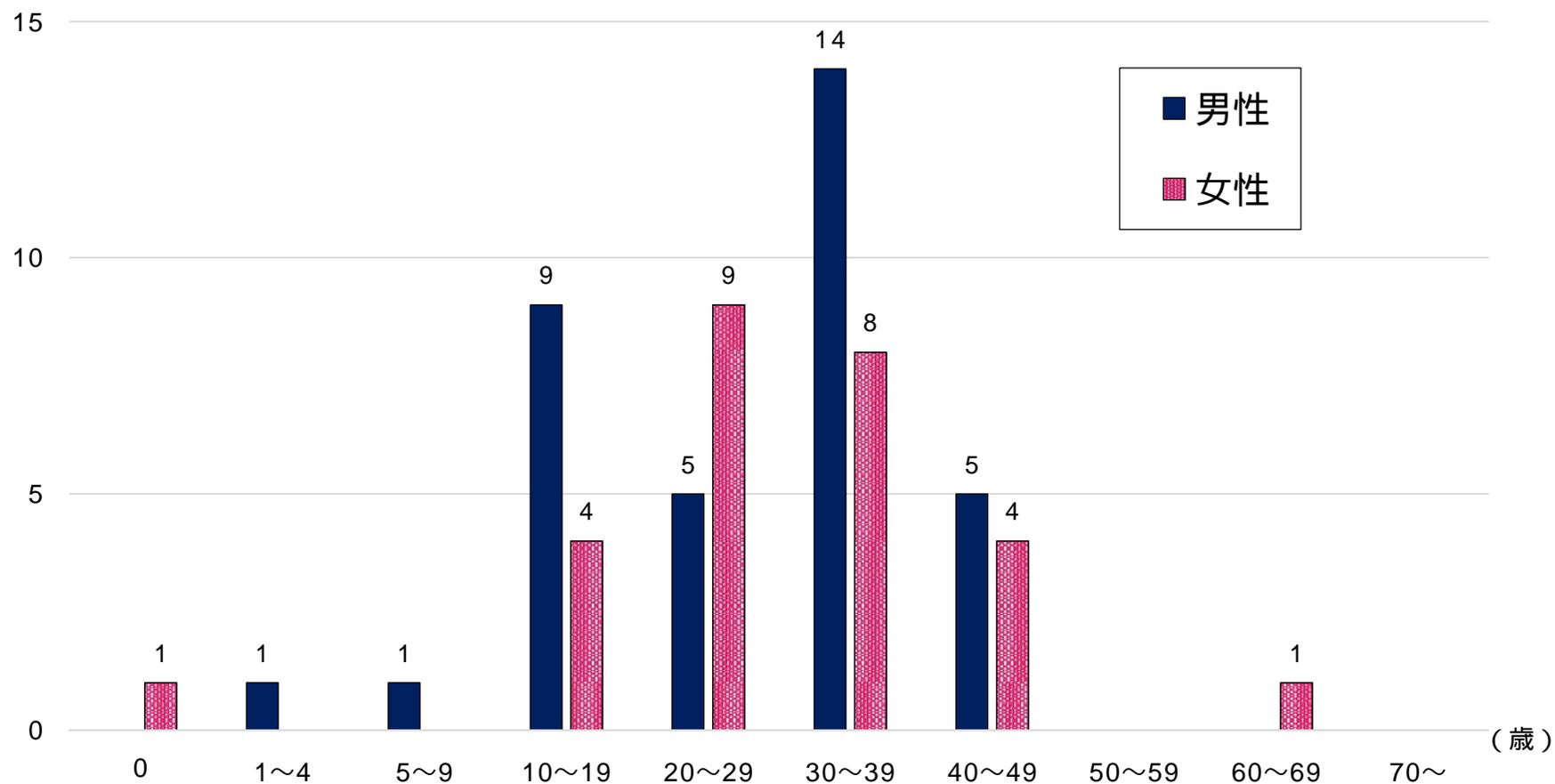


- ・2018年第45週までは確定例がでておらず、46週に確定（11月中旬）例が1例あり。
- ・その後、49-52週（12月）に4例の報告。
- ・2019年第1週以降も報告が続き、週ごとに右肩上がりに増加。
- ・第6週（2月上旬）には大型商業施設関連事案が発生し、市内報告数もピークとなる。

麻しん年齢階級別・性別報告数 2019年累計62人

(人)

第33週まで

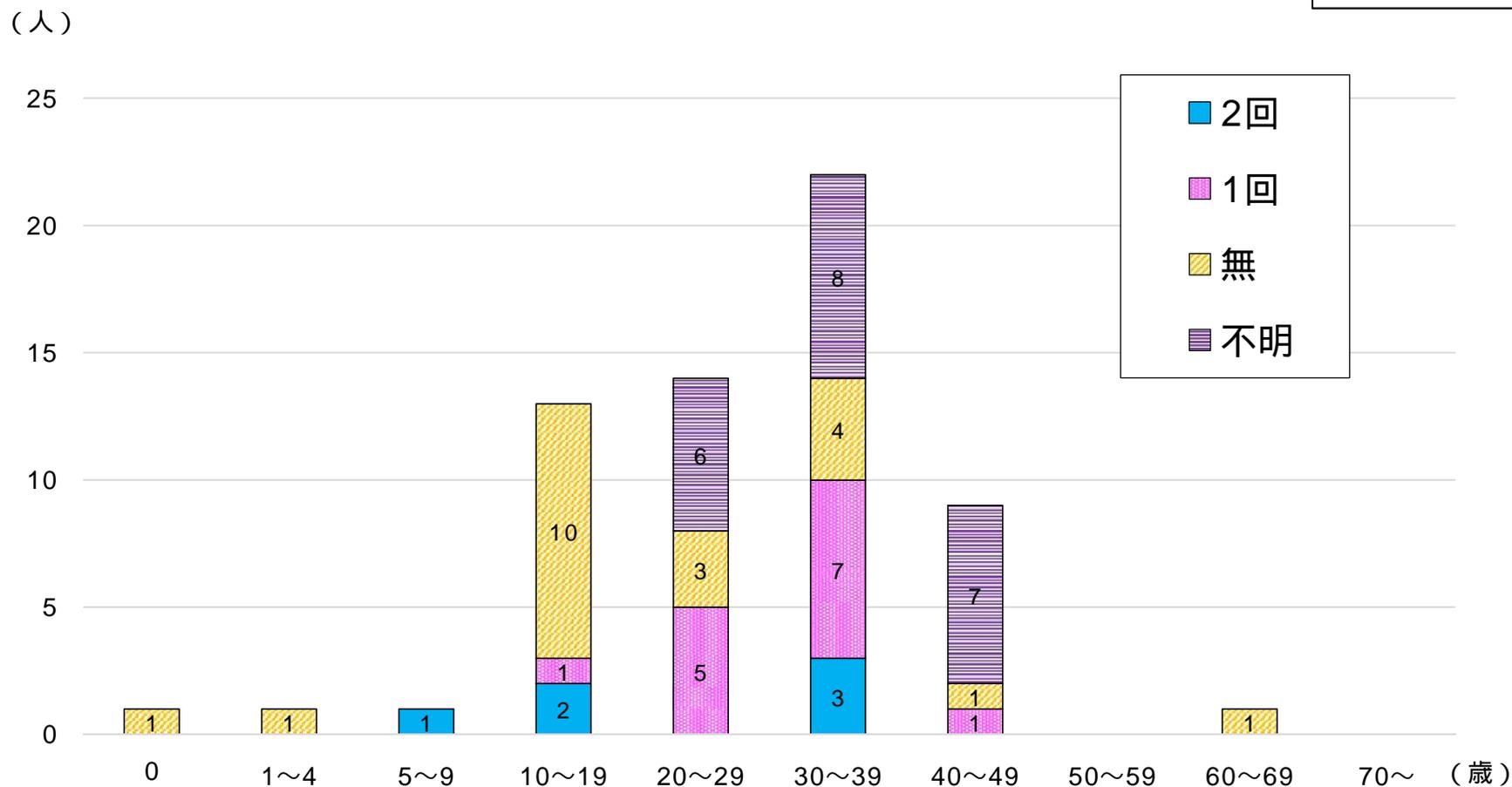


10~40代での報告が多く、特に30代男性が多い

麻疹年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

2019年 累計62人

第33週まで



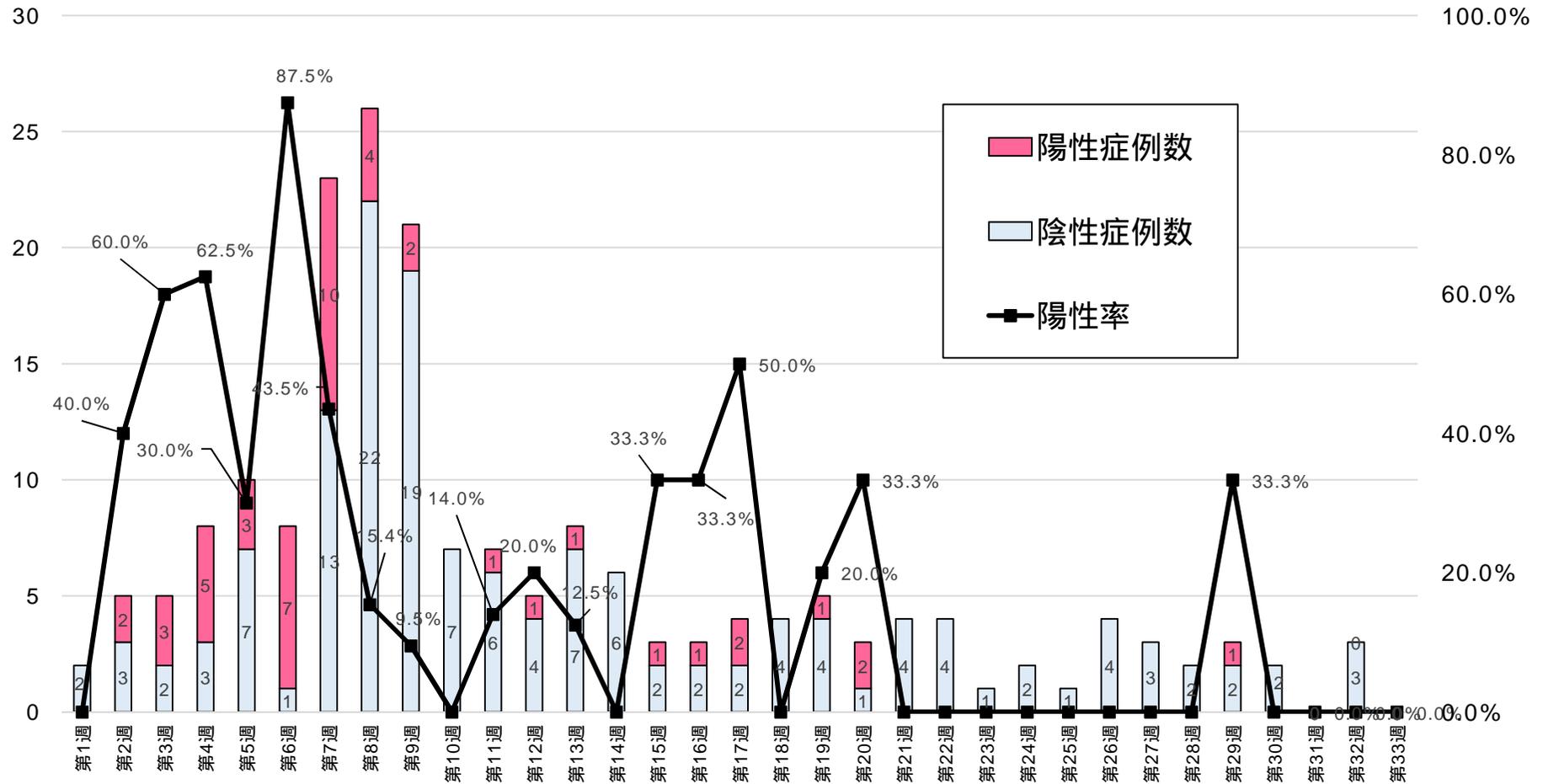
・接種歴無しまたは不明が67.7% (42/62名) と7割近くである一方、2回接種歴ありの者も9.7% (6/62名) であった。
・10代以下では接種歴無しの者が多く、20~40代では1回接種や不明の者が多かった。

大阪市麻しん行政検査数と陽性検体数（2019年）

第33週まで

IgM診断例15例除く

(件)



ピーク時には週に25件以上の疫学調査・検査依頼あり（その他自治体からの依頼あり）

あべのハルカス近鉄本店における 麻しん集団発生事例

【端緒および事例の概要】

2019年2月9日 市内医療機関より大阪市内区保健福祉センターへ麻しん疑い患者の届出。

2月10日 大阪健康安全基盤研究所で遺伝子検査実施、麻しん確定（発端例）。

同日 大阪府より大阪市保健所へ、府下保健所管内で麻しん患者が発生しているとの一報あり（2例目）。

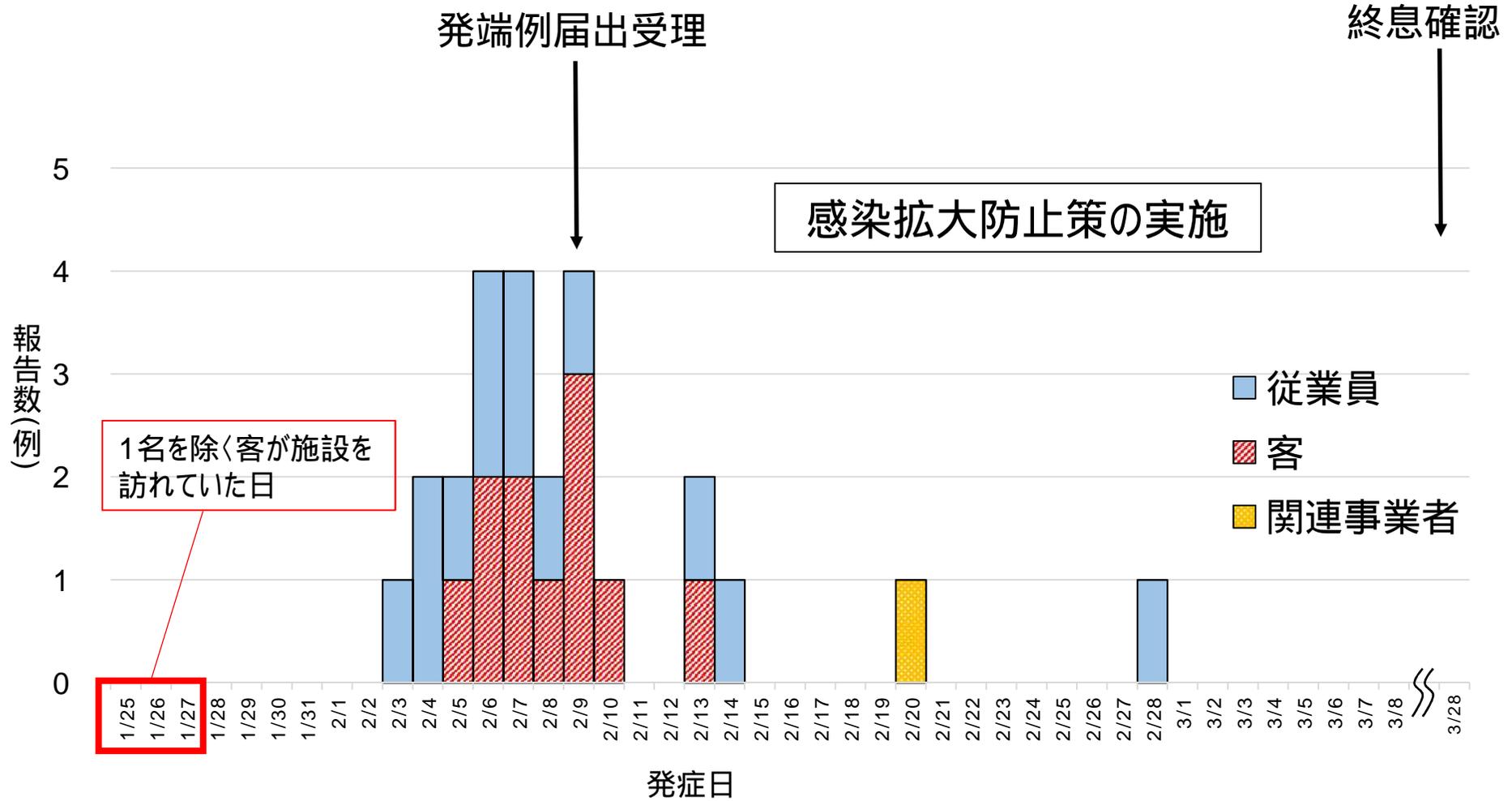
疫学調査の結果、2名はいずれも感染可能期間内に大阪市内の同一の商業施設（あべのハルカス近鉄本店）で勤務していたことが判明した。当該商業施設での集団発生と考え対応開始。

当該商業施設内で感染したことが疑われる麻しん患者（従業員、客、関連事業者）は市内届出患者5名、近隣自治体からの届出患者を含め、計25名確認された。

麻しんウイルスの遺伝子型はD8であった。

保健所・保健福祉センターは関係機関と連携し感染拡大防止策を行い、当該商業施設内で麻しん患者との最終の接触者発生から4週間が経過した2019年3月28日をもって終息したと判断した。

あべのハルカス関連麻しん患者発生状況 (2019年2月3日-3月28日, n=25)

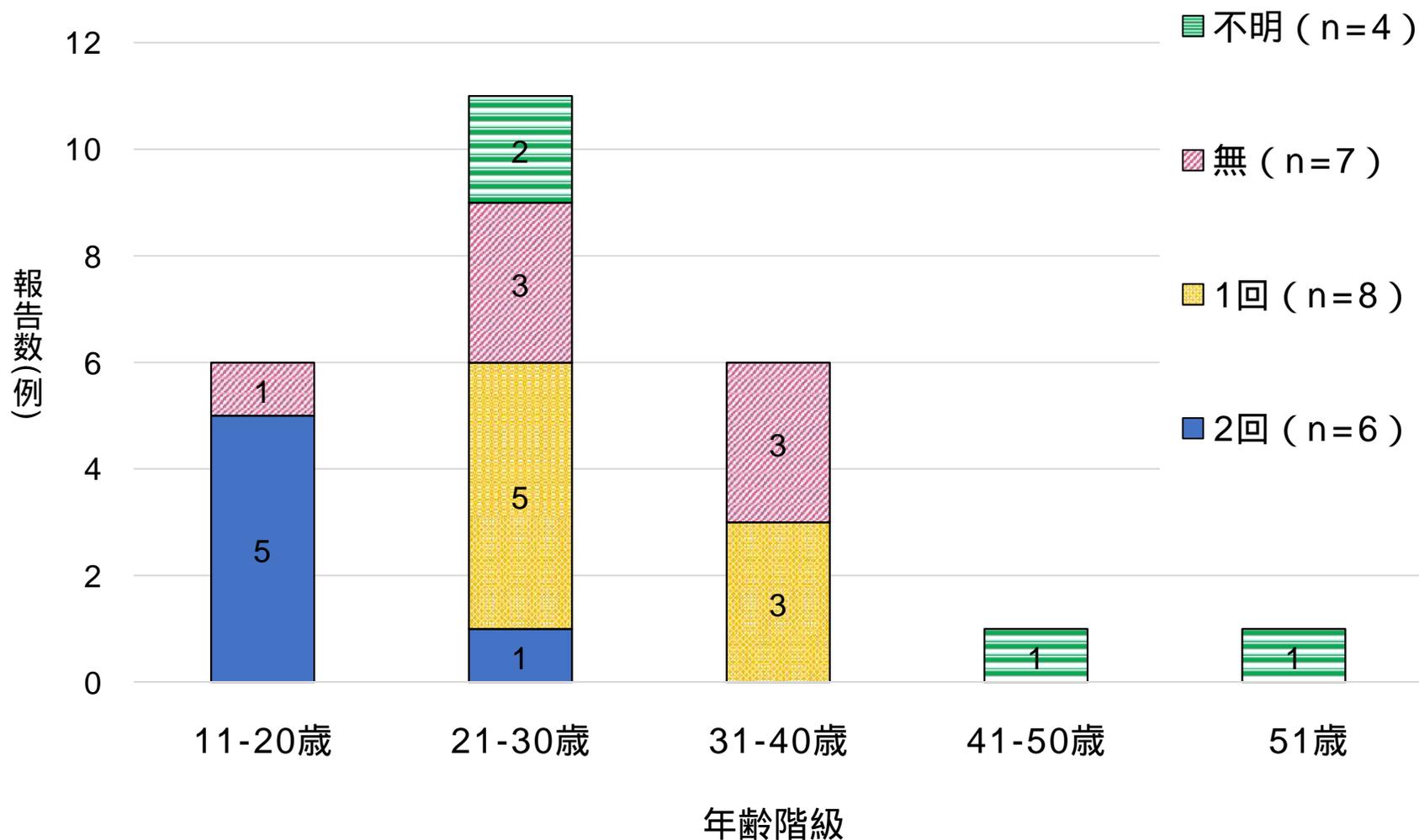


あべのハルカス関連麻疹患者の基本情報 (n=25)

		患者数 (%)
属性	従業員	13 (52%)
	客	11 (44%)
	関連事業者	1 (4%)
年齢	中央値 (範囲)	22 (17-52) 歳
性別	男性	6 (24%)
	女性	19 (76%)
ワクチン接種歴	2回	6 (24%)
	1回	8 (32%)
	無または不明	11 (44%)
病型 ()	典型麻疹	7 (28%)
	修飾麻疹	17 (68%)
	不明	1 (4%)

「典型麻疹: 38 以上の発熱、全身性の発疹、一つ以上のカタル症状 (咳、鼻汁、結膜炎) の3つすべてを満たすもの」
「修飾麻疹: 前述3症状のうち1つか2つを満たすもの、または、37 台の発熱または体熱感、限局性の発疹、一つ以上のカタル症状、のうち1つ以上を満たすもの」

あべのハルカス関連麻しん患者の年齢階級別 ワクチン接種歴 (n = 25)



感染拡大防止策 (保健所・保健福祉センター)

患者の行動調査

接触者調査

- あべのハルカス近鉄本店の全従業員へ
 - 健康観察
 - 有症状時の出勤自粛要請と受診勧奨
 - 未接種未罹患者へのワクチン接種勧奨上記について、文書配布や館内アナウンスにより周知徹底

報道発表

- 患者（従業員）とのハルカスでの不特定多数の接触者へ
 - 2月11日より終息（3月28日）まで全10回報道発表を行い、注意喚起を実施

感染拡大防止策 (保健所・保健福祉センター)

サーベイランス強化

- 疫学的リンクがなくても1、2徴で発生届受理

関係機関（自治体・医療機関等）との連携

- 近隣自治体や大阪府内医師会等との情報共有
 - 事例の詳細情報を2月21日より終息まで全7回文書（「麻しんExpress」）で発信
 - ホームページで未公表の追加情報の共有（患者の居住区・市、推定感染源、PCR検査実施状況等）
 - 医療従事者へ、麻しんの診療・対応における協力を改めて依頼

大阪市 麻しん Express No.1 (2019年2月21日)

大阪市保健所感染症対策課

本資料は、大阪府医師会、大阪市内26医師会、病院協会、私立病院協会、大阪府内保健所（政令中核市含む）、近隣自治体（近畿2府4県・政令市）、大阪健康安全基盤研究所宛に作成しております。

公衆衛生対策上、必要と思われる報道未発表の情報（2月20日現在）も含まれます。SNSでの発信を慎むなど、取り扱いには十分ご配慮いただきますよう、よろしくお願いたします。

1. 麻しんの診療におけるお願い

1) 以下に示す場所・日では、不特定多数の接触者が発生しています。

あべのハルカス近鉄本店 ウイング館9階催会場（バレンタインフェア会場）

日付：2019年2月3日～2月10日、12日、13日

あべのハルカス近鉄本店 ウイング館2階 イベントスペース

日付：2019年2月6日、2月8日

あべのハルカス近鉄本店 ウイング館3.5階

日付：2019年2月7日、2月8日

あべのハルカス近鉄本店 タワー館10階

日付：2019年2月6日（17時～20時）

あべのハルカス近鉄本店の全従業員、および上記（特に9Fバレンタインフェア）に訪れた方は、潜伏期間（7～21日、平均10～12日）を経て麻しんを発症し、受診する可能性があります。潜伏期間から考えると、今後も患者の発生が続くことが予想されますので、十分にご注意ください。尚、全従業員には、発症時は事前に医療機関に連絡のうえ受診するように文書で注意喚起しております。

感染拡大防止策 (保健所・保健福祉センター)

対策会議の開催

- 2月22日に国立感染症研究所の疫学専門家と対策会議を実施し、対応に関して助言を得た

二次感染例3例を認めたが、三次感染例の発生はなく
3月28日に事例の終息を確認した

本事例の特徴と強化した対策

特徴

- 大型商業施設内での集団発生であり、多くの患者や接触者が大阪府・大阪市のみでなく、近隣自治体に居住している
- 広域な対応を要し、関係機関（自治体・医療機関等）との密な連携が必要である



対策

- 通常よりも詳細な疫学情報や患者情報を、関係機関と適時に共有した（麻しんExpressの発信）

今後の課題

- 本事例では、個人情報に十分配慮するため、患者の行動歴や所属する集団等の詳細情報は共有できなかった
- より発生初期段階から、感染拡大防止に寄与する情報を関係機関と共有していくことが今後の課題である
- 麻しん患者報告数が増加した際に、より適時に対応できるよう、課内の体制を強化していく